



Subaru

男声合唱団

ニュース№720

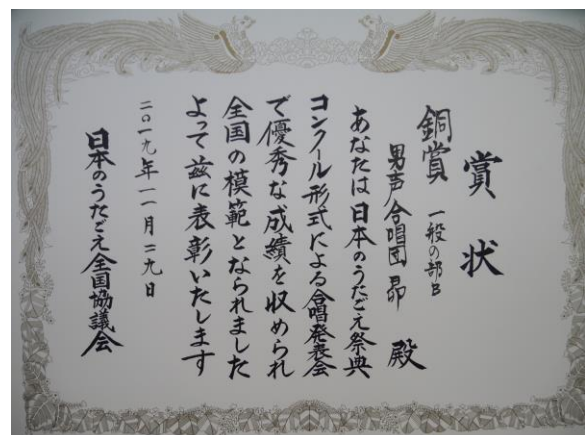
'19. 12. 23

嶋本晃声楽レッスン(第7回)開講・「懐かしのケンタッキーの我が家」「このみち」をハーモニーを重視して!

12月20日



□ 12月20日(金)18:00~20:30 今年最後となる昴定例レッスン「嶋本晃声楽レッスン(第7回)」が開催されました。佃さんの体操のあと、レッスンに入る前に、全国うたごえ協議会から「日本のうたごえ祭典・京都の合唱発表会」銅賞受賞の「表彰状」が送られてきました。この1年を振り返り、1月の新春のつどいの出演、2月のいずみホールでの昴12回コンサートの成功、「日本のうたごえ祭典・京都」の参加と銅賞受賞、そして地道な日常のレッスン等、昴のうたごえの活動の奮闘に対する”ボーナス”として、うれしい贈りものをいただきました。



□ 嶋本レッスンでは、嶋本先生の入念なヴォイストレーニングが20分ほど行われたあと、本並先生の指揮で、「懐かしのケンタッキーの我が家」を合唱し、「聴き役」に回った嶋本先生から、フレーズ毎に、きめ細かな発声上のアドバイスを受けるレッスンとなりました。

(「ことば(単語)」の発音の強弱(抑揚)、母音と子音の音符の長さの乗せ方(長めに、短めに・・)、p pからp、mf、f、クレッシェンドの変化、各パートの音程の正確さ・ピッチが下がらないこと、延ばした音が息の抜けた声にならないこと、和音を大事に他パートの音も聞きながら・・等、)

休憩をはさんで、本並先生の指揮で、「このみち」をレッスンし、嶋本先生のアドバイスを受け、30分間最後まで歌い通し、今年1年の合唱を終えました。
ピアノ伴奏は森二三さん。参加者は全36名でした。

□連絡・報告事項

(1)2020年のレッスン開始:2020年1月12日(日)10:00~ 13回コンサートに向けた強化レッスン
レッスンの曲目(予定):「U Boj!」「見上げてごらん夜の星を」「草競馬」「懐かしのケンタッキーの我が家」「津軽平野」「SIYAHAMBA」「方正の青い空」「昴はうたう」

1月12日(日)朝10時からの初レッスンですが、午前・午後ともに途中で休憩をとり、昼の食事休憩も十分にとり、疲労が蓄積されないようにします。

途中「津軽平野」の公開合同レッスンが予定されています。

1月12日レッスン中の、午後2時~3時は、「津軽平野」の2月23日本番指揮者の山下政雄さんが来られ、「津軽平野」の公開合同レッスンになる予定です。

午後3~5時以後は、昴の単独レッスンへ戻ることになります。

1月13日(月)夜、6時半~8時は、音楽センターにて、2月23日祭典向けの「SIYAHAMBA」の合同レッスンが行われます。

大阪音楽センター会館

大阪市城東区鳴野西5-17-16

JR学研都市線、地下鉄今里線「鳴野」駅下車徒歩8分

(2)伊藤副指揮者より、「正月休みのこの時期に、13回コンサートにむけての自己レッスンにしっかり励んでほしい!」との要望がありました。

特に「U Boj!」を何回も練習し、覚えてしまいうぐらい練習を! 「ケンタッキーの我が家」も、レッスン当日には「曲の流れをつかみながら歌える」段階へ進めるように、自己レッスンで楽譜をしっかり見ながら、何度も練習して欲しい。
まだしっかりと歌えていない曲目も、この休みの期間に楽譜を見ながら(暗譜まで?)練習をしてください。

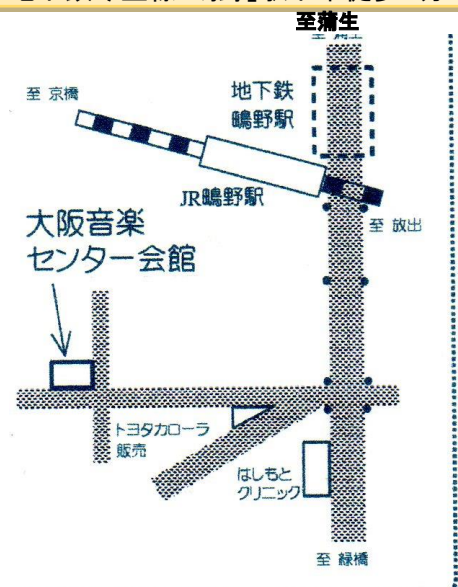
(3)伊藤技術部長より、次々回の「第14回コンサート」に向けての報告がありました。

2020年5月の「第13回コンサート」後の第14回コンサートに向けて、技術部会が検討を開始しました。選曲に関しても検討を始めます。

団員への要望:「14回コンサート」に向けて、「この曲を!」という1曲を提案して欲しい。

曲名と共に「なんでこの曲を歌いたいのか?」の理由も添えて提案することをお願いします。

No.720(2/3)



(4)「13回コンサートチケット管理表」を渡しました。

山本副団長より、「チケット個人管理表」が各自に渡されました。この表に基づいてチケットの販売等の管理をし、積極的に宣伝し、チラシ・チケットを渡し、販売して欲しいとの訴えがありました。

(5)新人大歓迎です！！

小泉清弘(こいずみ・きよひろ)さんが入団の方向でレッスン見学に来ておられます。

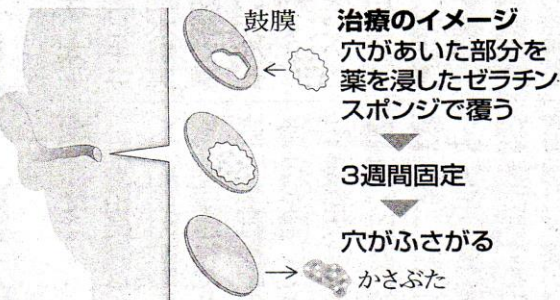
山口さん(BR)の友人、65歳の若き歌手、美声の持ち主です。千秋教室(第2)にも2回ほど体験レッスンを受けておられます。

(投稿) 難聴の方(慢性中耳炎等で鼓膜に穴の開いている) 朗報です！ (BR:西村さんより)

鼓膜の穴 薬で元通り

北野病院(大阪市)などの研究チームは12日、穴があいた鼓膜の再生を薬で促し、穴をふさぐ新しい治療法を開発したと発表した。入院が必要だった従来の治療法より負担が少なく、クリアに聞こえるようになるという。11月に公的医療保険の適用対象となった。研究チームによると、慢性中耳炎などによって鼓膜に穴があいている人は、国内に100万人以上いるとみられる。耳の後ろの組織を手術で取り、移植する治療が行われていた。入院が必要で負担が大きいほか、聞こえ方もよくなかったという。このため、手術を受

入院不要 ■ 聞こえ方クリアに



けない人も多くいるとみられる。北野病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科の金丸真一主任部長らが開発し

た治療法は、鼓膜にあいた穴の周囲に小さな傷をつけた後、細胞の成長を促す薬を含ませたゼラチン スポンジで穴をふさぐという手法。傷をつけることで鼓膜のもとになる細胞が活動を始め、穴がふさがるといふ。処置は20分ほどですみ、3週間ほど後にかさぶたを取り除く。スポンジは自然に分解されるという。

臨床試験など400例以上の治療では、約85%で穴が完全にふさがった。日常会話レベルの聞こえ方は大幅に改善し、90歳以上の高齢者でも効果があったという。鼓膜の内側に異常がない場合、従来の手術の9割以上で置き換え可能だという。金丸さんは「多くの医師に取り組んでもらうため、講習会も予定している」と話している。

2019.12.13

朝日新聞 杉浦奈実